クラス	303	担当教員	千賀　則史

テーマ	子ども虐待、少年非行、いじめ、不登校、社会的養護などへの心理社会的支援
著書･論文 研究課題等	【著書】『子ども虐待　家族再統合に向けた心理的支援』単著　明石書店　2017 年 『子ども虐待事例から学ぶ統合的アプローチ』共著　明石書店　2022 年　他 【論文】「当事者中心モデルによる非行からの立ち直り支援の意義と可能性」『コミュニティ心理学研究』22(2), 98-112　2019 年　他 【研究課題】内的世界と外的世界を共に扱う統合的アプローチに関する研究

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：心理療法統合、統合的アプローチ、共創、開かれた対話、質的研究法

＜目的と内容＞

本ゼミは、子ども虐待、少年非行、いじめ・ハラスメント、不登校・引きこもり、社会的養護といった社会的課題への心理社会的支援のあり方について研究することを目的としています。学生の問題意識や関心を出発点として、現実的な制約などを考えながら、研究活動を行います。インタビュー調査やアンケート調査を実施し、得られたデータを教員や学生と議論しながら分析するプロセスを通して、新たな意味を発見したり、自分自身の価値観が変容したりすることが研究のおもしろいところだと思います。

担当教員は、児童相談所、一時保護所、児童自立支援施設などの児童福祉の最前線で心理社会的支援を行ってきました。現在は、スクールカウンセラーとしても活動しています。虐待や非行など、複雑な問題が絡み合った困難ケースへの支援をするために、認知行動療法、精神分析、家族療法、解決志向アプローチ、コミュニティ・アプローチなど、さまざまな理論や技法を学んできました。こうした複数の理論や技法を臨機応変に活用して支援する心理療法統合や統合的アプローチの研究に関心があります。

また、あらゆる支援の基礎となるのは、「関係性」であり、統合的アプローチの本質とは、「共創」や「開かれた対話」という支援姿勢だと考えています。本ゼミにおいても、「共創」を理念として、みなさんと対話しながら一緒に創っていくゼミにしていきたいです。

＜授業計画＞

3 年生では、前期に①自分の関心があるテーマの文献研究、②心理学の研究法について学びます。また、ゼミ生の希望に応じて、お楽しみ会、学外実習などを行います。2023 年度と 2024 年度は名古屋矯正管区に見学に行き、矯正心理専門職の仕事などについて学びました。後期には、量的研究班と質的研究班の 2 グループに分かれて共同研究を行い、研究計画の立案からデータ収集、分析、考察まで研究の手続きを一通り経験し、4 年生の卒業論文の執筆に向けて準備します。
ゼミ生同士の意見交流や発表などの機会も多いため、積極的な姿勢で参加してください。

担当教員からのメッセージ

◆ 研究は、みなさんがおもしろいと思うことをするのが一番だと思います。対話をしながら、みなさんの興味・関心があることを、どうやったら研究できるかを一緒に考えていきます。

◆ 臨床心理士や公認心理師などの心理職だけに限らず、誰かを支援することに関心がある人を歓迎します。みなさんには対人援助の現場の生の声を届けていきたいです。

◆ みなさんのことは、「学生」というよりも、「研究者」「支援者」として接したいと思います。研究者や支援者には、倫理を遵守することが求められます。例えば、誰かを傷つけるような恐れがあることはしない、適切な手続きで研究を進める、先人の知的活動に敬意をもって接する、研究に協力してくれる人たちに感謝の念を抱く、など、どれも当たり前のことですが、人とのコミュニケーションの基本とも言えることなので、しっかりと身に着けられるように指導します。

◆ “こころ”というデリケートなテーマを扱うゼミなので、ゼミメンバーの心理的安全性を何よりも大切にしたいと考えています。たとえ異なる価値観であったとしても、お互いのことを尊重し合うことができるゼミにしていきたいと思っています。